播磨ミステリーハント

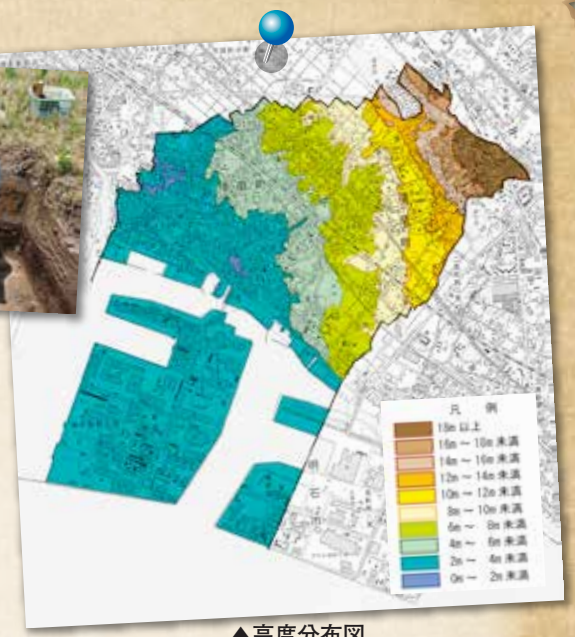
播磨町の歴史や偉人の「?」と「!」について、秘められたトピックスなども交えながら紹介します。

文責 播磨町郷土資料館 宮柳靖
☎079(435)5000

Mystery.6

大中遺跡は安全地帯!?

▲試掘の様子



▲高度分布図

古宮大池西側には、埋蔵文化財包蔵地が広がっています。このたび、ここを埋め立てて宅地にする申請が開発業者から郷土資料館にありました。試掘調査により数点の出土品があり、慎重工事で許可を出しました。

このとき海抜を調べたところ、4.6mあることがわかり、予想より高かったため、その他の文化財の海抜も調べてみました。開発地に近い「うなぎ井戸」は同じ海抜でしたが、数百mしか離れていない播磨南中学校の「新井水路改修記念碑」は海抜6.8mもありました。海から離れていて高いと思われる播磨中学校でも海抜は5.7mで、播磨南中学校より1.1mも低いのです。また、これといった山もないのに、なぜ「土山」かとよく尋ねられます。JR土山駅北側の土山駅前集会所は22.1m、一番高いところは23m近くあります。これは9階建ての建物に相当する高さで、海沿いから見ると小高い山のように見えたので、「土山」と名付けたのかもしれません。播磨町は、最長東西2.5km、南北2.5km(新島を除く)の小さなまちですが、海に向かって一律に低くなっているのではなく、地形は起伏に富み、結構でこぼこしています。

また、海抜が15m近くある大中遺跡は、発見当時(昭和37年)、北側一帯から西側の住吉神社の向こうまで潰目池が広がっていました。南側にも大きな狐狸ヶ池があり、東側には喜瀬川が流れているなど、ほぼ四方を池と川に囲まれた丘の上にありました。弥生時代もほとんど同じような地形だったので、この場所は川と湿地帯に囲まれた、まさに自然の要塞でした。一方、弥生時代も後期に近づくと、洪水がよく起こり、家が水に流されたり作物が収穫できなかったり、また、漁に出ても獲物が手に入らなかったりするなど生活は不安定で、戦いや争いが絶えず起こっていました。そのため、人々は安心して安全に暮らせる場所を求めて大中遺跡(愛称 オポナカムラ)に移り住んだのです。1900年前のオポナカムラは、避難場所として最適かもしれません。

9月1日は「二百十日」。これは、台風の被害を警戒したものですが、関東大震災を機に「防災の日」と定められました。この機会に、地震や津波についても考えてみたいものです。

町の人口 8月1日現在 住民基本台帳人口+外国籍人口。( )は前年比。
34,788人(+74人) 男…17,042人(+31人) 女…17,746人(+43人) 世帯数…14,257世帯(+25世帯)

播磨町のホームページアドレス http://www.town.harima.lg.jp
〃 Eメールアドレス kikaku@town.harima.lg.jp
発行/播磨町役場 〒675-0182(個別番号) 兵庫県加古郡播磨町東本荘1丁目5番30号 TEL 079(435)0355 FAX 079(435)0609 編集/企画グループ 印刷/明光印刷

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association